



スマイル天神 No.40



令和4年1月31日
天神小学校
校長 木下 和弥

思いやりのある子・進んで学ぶ子・明るくたくましい子

それでも昼休みに遊ぶ

新型コロナウイルス感染症の感染が猛威を振るっている中、私たちの生活にも大きな影響を及ぼしています。学校や幼稚園・保育園等の臨時休業（学校閉鎖）や学年・学級閉鎖。学童クラブの休館。会社への出勤停止。勤務先の営業休止や収入の激減。私たちの生活への影響が計り知れないほど大きな毎日になっています。



学校生活では、できる限り普通の授業を普段通りにしたり、普通の学校生活を普段通りにしたりしていくことが、学校としてできる大切なことだと捉えています。

私は、これまで、校長としてできることのひとつとして、昼休みに子どもたちと遊ぶということに4月から取り組んできました。理由が二つあります。一つ目は、私が教師を志した理由となった心から尊敬する先生が、昼休みに遊んでくれたからです。それまでグループ別少人数で、ばらばらだった遊びから、クラスの友達みんなと遊ぶように変化し、友達関係がより豊かになったり、学校生活がより豊かになりました。

二つ目は、45分間の昼休みに子どもたちにとっての居場所の選択肢が一つでも増えればと思ったことです。クラスで仲のいい子どもと遊ぶこと、遊び係が中心となってクラス全員で遊ぶこと、図書室で読書を一人ですること。様々な選択肢があっているのですが、どの選択肢にも当てはまらない時。例えば、仲のいい友達とけんかしてしまった時。なんとなく一人ぼっちになった時。昼休みの遊びの選択肢がない時に、そこに行けば遊ぶ場所がある。遊ぶ人がいる。そのようなことを思って、出張などで不在の時・来客対応の時・緊急対応の時以外は毎日昼休みに遊ぶようにしてきました。

遊ぶ時に気を付けているのは、「来るもの拒まず、去る者追わず」です。私から遊びに強要することはありません。子どもたちはとてもかわいいもので、「校長先生、仲間に入れてください。」「校長先生、遊びに入っていていいですか。」と聞いてくることもありますが、「どうぞ。」と必ず言いますし、途中から友達がきたのでしょうか。「校長先生、抜けます」ということもあります。すべて「どうぞ。」とっています。

9月の始めは、子どもたちが他学年と交流がないようにしたために、希望する学年を、学年別にローテーションを組んで遊ぶようにしていました。今は他の学級との交流できないレベルになったため、遊びたいと希望する学級でローテーションを組んで遊ぶようにしています。学級や学年の枠を越えて遊んでいた時には気づかなかった、その時のよさを感じます。たくさん子ども・たくさんの学級・学年で遊びを通して交流するすばらしさを、今さらながら感じます。がまんすることが多いですが、私には私にできることを考え、工夫をしながら子どもたちと遊んでいます。最近は、鬼ごっこではなく、サッカー希望もあり、遊びの種類にも幅が出てきました。元気よく遊ぶ子どもたちの笑顔は、本当に素晴らしく、元気をもらっています。

天神小一徳運動 「気持ちのいいあいさつ」 ～あじさいあいさつを～

～あいての目を見て ①ぶんから ②わやかな声で ③いつでも・どこでも・誰にでも